

「一生の力を付けるつもり」

新しい年が始まったと思ったら、もう1月が終わろうとしています。遅くなりましたが、昨年中は大変お世話になりました。今年もよろしくお願ひします。3学期が始まり、元気な子供たちの明るい声が学校に戻ってきております。そのような子供たちの姿を見ながら、子供たちにとって学校として大切にしていかなければならないのは、どんなところにあるのだろうと考えることがあります。

子供を教育することを考えるとき、私たちはどうしても目先のことにとらわれてしまいます。どの子にも同じように自席に座って学習に集中する姿を求めます。うがった見方をすれば、おとなしく席に座って教科書やノートを広げ、先生の方を向いていれば私たち教員も、保護者の方も安心している節があります。しかし、そのことをよくよく考えれば、子供の成長を願っているというよりは、指導者や保護者、大人側にとって、都合がよいという理由であったりすることがあります。その子供が本当に将来自分で生きていくために必要なことを見通して、子供に働きかけているかと言えば、自分を振り返っても非常に怪しい面もありました。

したがって、少しでも構いませんから、その子供が親や先生の手を離れても、自分で考え、自分の力で生きていくことができるように、大切なことを見定めて指導していかなければならないと思っています。例えば、物事に向かうときの「努力する態度」です。たとえすぐに結果となって表れなくとも、「あなたはこんなふうに努力を続けてきたのではないか。そのことがとても大切だし、将来のあなたの力となっていく」ということを、個人にも集団にもしっかりと話し、返していく機会をもっていかなければならないと思います。また、「挨拶」についても、今互いに交わし合うことができれば、気持ちがよいということだけではなく、自分の将来にとっても、自分からしっかりとした挨拶をすることができるということが、どれだけの力になるかということも併せて知らせていかなければなりません。

とはいえ、大人の方でいくら意識して働きかけても、どの子にも等しく、同じように力がついていくことはありません。何より子供自身に、今は十分でなくとも、挨拶や努力は大切だから自分のものにしたいという強い気持ちをもたせていきたいと思っています。

早いもので、令和6年度もあと2か月で終わりになります。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、いつもご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。まだまだ寒い日が続きます。十分気を付けてお過ごしください。

(校長 村杉 一也)